

★★★★★★★★★★★★★★★★

みんなで力を合わせて州都広島の実現を！

★★★★★★★★★★★★★★★★



# 州都広島ニュース

## 第2号

〒730-0042  
発行者 広島市中区国泰寺町1丁目7-24  
          国泰寺ビル203  
NPO法人 州都広島を実現する会  
TEL082-504-9191 FAX082-504-9192



# 第2回 市民発！ 道州制シンポジウムを開催

「NPO法人州都広島を実現する会」は、去る6月30日に「市民発！道州制シンポジウム」を開催しました。タイトルは、「広島を面白く！」PARTIIと題して、広島国際会議場にて、満席の185名の参加を得ることが出来ました。登壇頂いたパネリストと参加下さった市民には、中身の充実した「議論を賜り、厚く御礼を申し上げます。」

パネリストのご紹介（敬称を省略）

- 樺本 功／中国地方総合研究センター理事長・広島大学名誉教授
- 大田哲哉／広島電鉄株式会社社長
- 山本一隆／中国新聞社副社長・経済同友会筆頭代表幹事
- 宇津徹男／浜田市長・浜田港振興会会長
- 伊東由美子／株式会社文華堂社長

### パネリストのご発言

（抜粋・要約）

**確井代表** 今日熱のこもった話をするため、真つ赤なネクタイをした。「広島がこのままではいけない」という思いが今回の動機。自民党の道州制案には「州都は交通の便利の良い所」と書かれている。交通の便は岡山の方がいい。広島は今のままでいいの。いま広島は陸の玄関「新幹線駅」と空の玄関「空港」を結ぶ高速5号線を中止せよという意見が出ている。これが出来なかったら州都はありえない。今日は遠慮のない意見をお願いしたい。

### 樺本



広島県は道州制の最先端を走っており、広島で議論したものが、国の道州制の導入への形になりつつある。先見の明があった。

**山本** 道州制は、  
我国全体で  
はまだまだ  
理解されて  
ない。しかし国の財政赤字や  
東京への一極集中は改善すべ  
き。経済同友会では、四国は  
四国州だけで集まりたいとし  
ており、我々は中国州でまと  
まるしかない。州都論の前に  
どういう道州にすべきかを考  
え、中国州の楽しいまちづく  
りや新しい交通体系など夢の  
プランをつくりたい。



**大田** 先般、広島  
商工会議所  
から州都を  
担うにため  
には、中枢  
機能とその支援機能である交  
通体系を両輪として高める必  
要があるという総合交通体系  
の提案があった。交通体系の  
課題解決には ①西飛行場か  
ら公営州都便就航 ②広島駅  
北口の広島第二バスターミナ  
ル設置 ③広島空港アクセス  
の改善。④州都内交通の円滑  
化。⑤航空路線の展開が示さ  
れた。高速道路網の早期整備  
により、第二バスターミナル  
と広島空港間を30分台で結  
ばれることが望まれる。



**宇津** 島根でも石  
見の人は広  
島へ顔が向  
いている。  
中山間地で  
は人口が激減しており、市町  
村合併には苦労した。合併し  
ても、国が権限を抱いて財源  
がついてこない。国は外交・  
防衛以外は地方に委ねるべき  
だ。広島を州都とした合併に  
期待している。



**伊東** いま広島は  
本当に元氣  
なのか不安



取引先が広島を閉鎖し、大手  
企業も規模を縮小している。  
世の中は景気がいいと言うが、  
その実感がない。先般の人口  
統計でも広島は人口減少の上  
位にランク。私達が主体的に  
何かを起こしてゆかない限り、  
広島は元気にはなれない。州  
都は、周りから尊敬され認め  
られてはじめて役割が果たせ  
る。この機会に大学生や若者、  
主婦、女性の経営者など各分  
野から何らかの形で市民を巻  
き込み、参加型で私たちの地  
域の未来ビジョン創りは出来  
ないか。

**樺本** 自民党案には州都は中都市で  
もいいと書かれている。カリ  
フォルニア州の州都サクラメ  
ントは、19世紀に金塊の発  
見でゴールドラッシュになり、  
人が集まり経済の中心地にな  
り、当時は人、もの、情報が  
集まった。州都は情報の中心  
でなければ仕事ができないか  
らサクラメントに置いた。や  
がて金塊が枯渇し、一時期サ  
ンフランシスコに州都を変え  
たが、州庁舎や議事堂がある  
ので復帰した経緯がある。州  
都は中都市とか「何でもない  
所がいい」といった無責任な  
ことを言ってもらっては困る。  
「お金が無いから道州制にす  
る」のだから、今ある国の施  
設や県庁を有効利用しなけれ  
ばいけない。

**A氏** 学力低下の問題解決  
には体験、実験を必修にする。  
膨大な設備や実験教材は道州  
の単位で考え、工場は島根や  
鳥取でつくれば、地域が大き  
く発展する。

### 会場との意見交換

(抜粋・要約)

**B氏** 国際性という観点で、  
広島は学術交流・経済交流と  
いうことでは、はるかに岡山  
をしのぎ、観光者・学生数・  
進出企業など数倍以上の優位  
性がある。「アジア大学構想」



を復活するよう提案したい。  
**C氏** 道州制の良さ、悪さ  
が分かれば皆さんの関心が深  
まるので教えて欲しい。

**樺本** 市町村合併や道州  
制で、特に良くなることは無  
いが、悪くなり方が少なくて  
すむ。

**大田** 道州制で経済活動  
が、県を越えた広い範囲とな  
り、競争が激化する場合があ  
る。業種ごとにメリットもあ  
れば、デメリットもある。

**D氏** 州都が岡山に行った  
場合は各企業の支店や営業所  
が岡山へ移動する。対抗策は  
あるのか。

**山本** 広島県は分権改革  
が先行し、道州制にすぐに対  
応できる体勢。問題は、岡山  
の声が大きく、広島は声をあ  
げる機会が少ないために、広  
島は元気が無いという印象に  
なっている。県民はもっと自  
信を持つべき。

**宇津** 道州制は民間がこ  
れだけ頑張っているので行政  
も頑張るべき。例えば以前開  
催されていた広島と浜田両市  
議会の交流を復活させるなど。

**E氏** 広島県の経済が活発  
で明るい県になれば、おのず  
と州都がくるので頑張りたい。

**F氏** 郷土史家の村上正名  
さんの一節に「広島人は気が  
狭く、人の善を見てもあまり  
褒めもせず、悪を見て誹るこ  
ともなく、己が一分を守る風  
あり、拔群なる人少なし」と  
ある。いま、広島元氣回復  
に向けて、県民・市民が立ち  
上がる時である。

**G氏** 西飛行場の滑走路の  
延長は県も市もやる気が無い。  
広島駅裏の国有地もどう使う  
のか計画書すら出せないとい  
う。残された最後の砦の有効  
活用をお願いしたい。

**H氏** 住民にとって住みや  
すいものでなければ、州都広  
島を誰も理解しない。少しは  
良くなるという発想がいる。  
住民にとって幸せ度も考えて  
ほしい。

**I氏** 連邦制には憲法改正  
がいる。現行制度で島根県と  
広島県の合併とか、広島県と  
浜田市の合併を、突破口を開  
くという意味で提案したい。

**樺本** 県の合併は現行で  
できるので、今後の議論にな  
るかもしれない。ただ、道  
草を食わないで一気呵成に実  
現するのが筋であろう。(以上)



福田政権へと舵取りが変わる中・・・

# 州都広島への挑戦は不変です



先般の7月末の参院選以来、福田政権の発足まで、「道州制」への流れが三ヶ月間、機能停止状態にありました。しかし、後戻りは有りません。本会が目指す「州都広島の実現」がぶれる事は一切なく、前進あるのみです。

## 前政権の舵とり

安倍政権は、「道州制の導入」を掲げ登場した。地方分権改革推進委員会や道州制ビジョン懇談会を設け、自民党の道州制調査会は参院選の「マニフェスト」にも盛り込んだ。第29次地制調も発足した。前政権は道州制推進に多数の委員会等を発足させた。

## 参院選で地方の反乱

7月末の参院選で、総理は当初「改憲」と併せて「道州制の導入」を訴えるものと期待された。しかし、この度の参院選では、年金問題、政治と金、閣僚不祥事の修復に終始し、改憲や道州制は全く争点に至らなかった。党は「改革の成果」戦後最長の景気回復を訴えたが全く得票に結びつかず、地方で大敗した。つまり地方は景気回復どころか格差・衰退が加速する現状に、遂に「地方の反乱」を起した。思い起こせば、国民の声を察知しない自民党政権に「炎（やいと）をすえる」と言った人がいたが、結果的に大火傷になった。

## 新政権は地方重視へ

参院選の反省を受け、地方政策で知られる元岩手県知事の増田氏を総務大臣に

## 州都広島の大看板を設置

東区の饒津神社交差点かど地に大型看板を設置しました。



起用したが、直前に総理の辞任表明、福田総理の誕生、組閣の再開と、この間道州制の動きは三ヶ月間停止した。福田総裁には、小泉・安倍政権で生じた陰の修復、つまり「東京中心政策」から、「地方重視」への政策転換を強く期待したい。

## 衰退する中四国地域

今年、広島市は2020年を目標とする総合計画の改訂に着手する。厚労省によれば、その頃中四国地方の人口は今より97万人減り、減少率△8.2%は全国平均△3.9%の倍以上

## 動き始めた広島の大プロジェクト

工事が始まった新球場



広大跡地の知の拠点整備



との予測。広島市も既に社会減に突入。つまり、この地方から急激に人が消え、街はシャッター通りとなり、山林田畑が荒廃する一方で、東京が益々栄えるらしい。問題は、広島市民の多くが、周辺地域の崩壊・衰退を他人事と考え、「何れ共倒れとなる危機感」を共有できてない事である。

## 本会は挑戦し続けます

広島市が単独で州都になれる訳ではなく、周辺からの支持が不可欠である。

本会は、今後の「あるべき地方政策」の文脈で「道州制」を考え、この地方を牽引する「州都広島役割」をしつかり議論してまいります。

期待される現球場跡地の活用



広島駅周辺では、新球場が工事中、若草地区に外資系ホテル、駅前再開発Bブロックに超高層54F、Cブロックに超高層45Fを計画。都心地区では、本通ヒルズのオープン、広電ビルの立替、デオデオの増築、広大跡地の知の拠点整備と目白押し。問題の現球場跡地利用は拙速に走らず、州都広島の要として、中四国地域の人々が結集する拠点施設を望みます。

# 州都を目指す 元気な都市の紹介

州都を目指す複数の都市が立ち上がるのは、大変良いことだ。「我がまちを牽引力のある元気な都市にしよう」とする努力が素晴らしい。そんな中四国の州都・候補地を一覧した。

都市／人口	誘致運動などの概要
<b>広島市</b> 115.9万人	・現在、中四国で唯一の政令市 ・県下の市町村合併が先行、州都誘致はこれから ・NPO 法人州都広島を実現する会などが支援
<b>岡山市</b> 69.6万人	・H19/10/9 高谷市長は政令市移行後に 中四国州の「州都岡山を目指す」との発言 ・道州制推進や州都誘致への官民盛り上げは広島を凌ぐ ・県シンボはH19/10/11に岡山開催(本年度2回目) ・H19/11/8 津山、11/19 倉敷、H20/1/29 岡山で予定
<b>福山市</b> 46.0万人	・福山市議の一部に州都論 ・広島・岡山の中間に位置するメリット、中都市の条件も ・福山都市圏は岡山県の笠岡市・井原市に及ぶ
<b>尾道市</b> 14.9万人	・H18/12 尾道大学の洲浜学部長らが州都を表明 ・中四国の中央に位置し「瀬戸内の十字路」の拠点性
<b>三原市</b> 10.4万人	・H18/4 青年会議所などが州都の可能性を表明 ・広島空港を有する臨空都市にメリット
<b>三次市</b> 5.9万人	・H16/4 州都表明は吉岡市長の公約 ・中国地方の中心に位置するメリット ・「州都」を叫ぶ会 in 三次らが支援
<b>東広島市</b> 18.6万人	・H19/7 蔵田市長は「州都になれる都市建設」を表明 ・交通の利便性・中都市といった条件が後押し ・大学、空港に近く、近年の成長・発展が著しい
<b>高松市</b> 41.8万人	・四国の玄関に位置し、既に国の機関が集中 ・H17～地元経済界が、四国の独立と州都を表明 ・優先順位は、①四国州>②中四国州>③岡山+香川 この順位に地域の特質が現れている ・岡山市と松山市への対抗意識(警戒感)が伺われる
<b>松山市</b> 51.5万人	・四国最大の都市なのに盛上がりが低い ・H18/3 アンケートで①将来中四国州>②四国州の支持 ・対岸の広島へのエールが読み取れる
<b>四国中央市</b> 9.6万人	・H16/4 川之江市など4つの市町村が合併し誕生 ・四国4県に接し、四国第5の拠点都市を目指す ・H18/9 井原市長は「四国の州都」を表明

## 連載コラム 州都広島への7つの夢 (中)

今回は地域の個性が輝き元気になる話をしましょう。

### 地域の個性が輝く

今は全国の何処の地域も金太郎飴でつまらない。何でも国が介入し、均しく地域の面倒をみる援助・規制がなくなれば、州や地域に競争が生まれ、おのずと優劣が付く。各地域は「他所と同じ物づくりやサービスではダメだ」と分かる。地域は生き残りをかけて個性を磨き、全国に「魅力輝く地域」が誕生する。従来の「単一的な国土から、「重層で多様性のある国土」へと成熟する。もちろん皆で支えあう最低限の保障やハンデの仕組みを前提に。

### 地域が元気になる

これまでの地方が中央にお土産を持って拝金を乞う手法が消え、自分の財布で行うことになる。問題はカネだ。州間の競争を勝ち抜くには、優れた生活・産業・経済基盤があつてこそだ。つまり州単位で人・モノ・カネの流出を押さえ、他の州や海外から外貨を稼ぎ、カネを州内に投資する。地域が明確な目標を持ち、内部経済の豊かな循環を通じて、「私達の地域は私達の力で豊かさを勝ち取るのだ！」という真つ当な思想が根付く。国への依存から、「地域の自主・自立の精神」によって、我々は底力のある国家に変化する。次回につづく。

(事務局長 野村吉春)

## 本会会員を 引き続き募集中!

「NPO法人 州都広島を実現する会」は、会員の皆さまのご参加を通じて、地域に熱気の渦を起すものです。本会には個人会員と法人会員とがありますが、まずは「1口5千円の個人会員」にご加入下さるようご案内します。  
詳細は入会申込書の請求、またはHP (<http://shuto-h.com/>) よりダウンロードして下さい。



## 州都広島の声

### 東京集中が国を滅ぼす

明治以来増え続けた我が国の人口がH17年をピークに減少局面に転じた。一方で、東京への集中は更に進み、地方から若い連中が続々と東京に行く。広島大学を出ても東京に行く。若者を待ち受ける東京の罨は出生率1.0を割る全国最低値。つまり、東京は子どもを産めない都市。東京は若者を食欲に飲み込み消費する。まさに最悪の「亡国シミレーション」である。この流れを止め、国を滅亡から救う必要がある。

### 世界一の裏で地方が悲鳴

東京圏の人口3500万人は世界一。二位のメキシコシティや三位のニューヨークの倍以上の異常な集中。この異常の裏側に地方の衰退・悲鳴の実態がある。

### 経済競争から脱路

経済面ではどうか。我が国の時価総額トップ50社のうち38社(76%)が東京に本社。米国はダウ平均トップ銘柄30社のうちニューヨークは8社のみ。名だたる新興企業は全て地方発。一人当たりGDPで日本を抜いた英国や、欧州の各都市が元気回復、ユーロマネーが最強を更新。この勢いは、いま東欧諸国にも及ぶ。その秘密は、盟主ドイツの連邦制度モデルにある。EUへの加盟条件に、地域の自立(＝地方分権改革)を要求。分権の成果が欧州全土を強くした。

### 道州制こそが国を救う

国を越え地方と地方が直に交流する現在、中央集権制度では、世界のグローバル競争から脱落。つまり何が言いたいのか・道州制は「我国を救う究極の切札」なのである。